
夏の明かり

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の明かり

【Nコード】

N9858I

【作者名】

B J

【あらすじ】

千晶・朝沂・真佐が中心人物。

野球部ではないが野球が好きな三人組。

天候が悪い日以外は毎日三人で野球をしている。

一人はピッチャー。

一人はバッター。

一人は外野。

という配置で・・・

三人は他愛もないいつもの日々を過ごしていたが。

一つ・・・また一つ・・・と何かが変わる。

*****この小説は台詞と効果音だけですのでご了承ください*****

紹介（前書き）

お久しぶり？です

（＾－＾＊）／

B Jです。

まず、謝る事があります。

『青春』と書いていますが期待しないで下さい。

お願いします。

m ー m

紹介

「千晶^{ちあき}。上、上！」

「え？・・・っ！・・・痛あー、やったな朝沂^{あさぎ}！」

「お前が捕らねえのが悪いんだろ？ほら、もう一球行くぞ」

「ちよつと待つてよ！あーもう！・・・オーライオーライ・・・
オーラ・・・痛っ！？」

「クハハハハッ、何やってんの？お前バカじゃね？なあ、真佐^{まさ}」
「俺に同意を求めるな。千晶大丈夫か？」

「二回はさすがにキツイ・・・でも大丈夫！タフなのが私の取り柄だから」

「女がタフなのが取り柄って、クツ・・・クハハハハッ」

「なっ！そんな笑う事ないじゃん！」

「朝沂、お前どこまでツボに嵌まってんだ？本当に千晶の事となると何でも笑うな」

「えっ！？それ、かなり馬鹿にされてない！？朝沂のくせに！」

「あ？何で俺のくせに何だよ！」

「だって馬鹿じゃん！」

「お前よりはマシだ！お前赤点ギリギリじゃねえか！」

「朝沂なんか赤点取るじゃん！朝沂の方が馬鹿だよ！」

「たまにじゃねえか！それなら千晶だって赤点取るだろ！千晶の方が馬鹿だろ！」

「千晶、朝沂・・・どっちも馬鹿だし、二人共点数同じだから
「・・・」

「奇跡的にな・・・」

「わ、笑うな！もう一球来い！」

「何回やつても同じ・・・だ！」

（ガシャーんッ！）

「・・・もう一回！」

「これで・・・終わり・・・だ！」

（カキーンッ！）

「フハハハハッ今までののはハンデだよ。ハンデ」

「クッソー！！もう一回だ！」

「あ！私もう帰らなきゃ！」

「まだ早くねえ？」

「千晶帰るのか？」

「うん」

「そうか。おじさんにおめでと言っというて」

「あれ？真佐来ないの」

「ああ、今日は俺用事あるから、また後日行くわ」

「・・・そっか、なら仕方ないね。お父さん・お母さん結構真佐の事楽しみにしてたのに」

「悪いな」

「ううん。じゃあ、私帰るね」

「ちよつ、ちよつと待てよ！真佐、どうゆう事だ？」

「朝沂は知らないのか？」

「うん。前言ったんだけど聞いてないみたい」

「おい、何の事だ？」

「今日、千晶のおじさん誕生日だからいつも祝ってるんだよ」

「・・・知らねえんだけど」

「忘れたんじゃない。じゃあ、私時間だから行くね」

「おう。千晶また明日な」

「うん」

「悪かったな忘れて・・・でもな？その時は多分俺・・・」

「朝沂。千晶ならもう行ったぞ」

• • • • •

紹介（後書き）

感想・評価・質問・意見等を下さい。

お願いします。

m ((m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9858i/>

夏の明かり

2010年10月11日12時52分発行